

研究主題 共に考えを深め合う子の育成（2年次）

～児童が「見方・考え方」を働かせて問題解決をする指導の在り方～

1 主題設定の理由

(1) 新学習指導要領，県・市の重点事項を踏まえた育てたい子どもの姿から

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことで，児童に求められる資質・能力（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」）を育成することを目指している。また，各教科等において身に付けた資質・能力を活用したり，発揮させたりして，物事を捉え思考することにより，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」が鍛えられていくことに留意し，児童が各教科等の「見方・考え方」を働かせながら，各教科等の課題解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ることが示されている。さらに，主体的・対話的で深い学びの実現を目指して授業改善を進めるに当たり，特に「深い学び」の視点に関して，各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」であるとされている。

このことを受け，新潟県の令和4年度学校教育の重点では，「主体的・対話的で深い学びの実現」を掲げ，「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業づくりに全校体制で取り組むことを掲げている。柏崎市教育委員会でも，柏崎市学校教育実践上の努力点や柏崎ステップアップ学びプランにおいて育成を目指す3つの資質・能力に向けて，「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点から学習活動を充実し，どの子ども「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりの推進を位置付けている。このような社会の情勢を踏まえた時，今年度も引き続き，児童が学びの深まりの鍵となる「見方・考え方」を働かせ学習をしていくことを大切に授業改善に取り組み，「主体的・対話的で深い学び」につなげていくことの意義は大きいと考える。

(2) 重点目標を踏まえた育てたい子どもの姿から

当校の昨年度のベネッセ総合学力調査（12月実施）の平均正答率は，国語・算数・社会・理科の教科において，どの学年も市平均よりも概ね正答率が低かった。また，どの学年も，基礎は，教科に関わらず概ね70%以上取れているが，応用は，教科によっては50%を下回る学年も見られた。柏崎市全体の課題である，思考力・判断力・表現力や，知識・技能を活用する力が弱いということが本校も同様であると考えられる。このことを踏まえ，ある一つの教科に限定せず，様々な教科において，思考力・判断力・表現力等を活用したり，発揮したりして「見方・考え方」を鍛え，その「見方・考え方」を働かせた学びに焦点化して授業改善に取り組み，育成に取り組むことは大切である。

当校の重点目標を授業で目指す姿に照らし合わせてみることとする。

「自分で決めて」・・・問題意識を基に，解決したい内容や方法を自分事として自己決定する姿

「仲間とともに」・・・協働して学ぶよさを実感しながら追求する姿

「高め合う子」・・・仲間と「見方・考え方」を働かせたことで，思考の変容や深まりを自覚し，新たな問題意識をもって課題解決に取り組む姿

このように，今年度も引き続き，学校の教育活動全体を通して児童の問題意識を大切に，児童が国語・算数・社会・理科の教科を中心に，「見方・考え方」を働かせて，主体的・対話的で深い学びに迫る指導の在り方を明らかにしていくことにより，重点目標で示す児童の姿を具現することができると思う。

(3) これまでの校内研究の成果・課題から

「共に考えを深め合う子の育成」を研究主題として掲げ，授業研究を行ってきた。1年次研究で得た知見

を以下に示す。

①各教科・領域の「見方・考え方」について

○筆者の論の進め方の工夫である「事例の順番」という見方から、説明文を捉えさせることの有効性
(国語科 説明文 第6学年)

○単元を通し、毎日の授業で、数学的な見方・考え方を示し、気付かせることの有用性
(算数科 かけ算 第2学年)

②自分事になり得る単元を貫く課題や本時の課題、問い返しの質の向上と話し合いの仕方の工夫について

○各グループでの問い返しの有効性

○その後の話し合い活動の形態をペアやグループなど、児童に選ばせることでの主体性の高まり

③各教科・領域の「見方・考え方」の価値付けの仕方について

○各教科・領域における見方・考え方を働かせた姿の価値付けには、学びを振り返る場や学んだことを生かす場を設定することで、見方・考え方を働かせて問題解決をする児童の姿のさらなる表出につながる。

また、各教科・領域において、全ての単元が始まる前に各教科の見方・考え方を設定し、ねらいにせまる問い返しとその後の話し合い活動の設定、価値付けの仕方も考えて単元構成を行い、昨年度の研修でおいた手立ての3つを全てセットで授業を行うと、各教科・領域の「見方・考え方」を働かせて問題解決していく児童の姿の表出につながるが見えてきた。

一方で、以下の課題が見られた。

・各教科・領域の見方・考え方を働かせて問題解決していく姿の表出には、教師が見方・考え方を設定したら、その見方・考え方を働かせた姿とはどんな姿なのかを具体像まで明確にもち、洗い出す必要がある。

・児童の思考の深まりを促すには、単元を貫く問題意識や自分事として捉えることができる単元構成、子どもの追求意欲を高める工夫を設定した上で、問い返しをすることの必要条件を満たす必要がある。(必要条件…全員が問題に対する自分の考えをもっている・焦点付けた問い返しなど。)

2 研究の内容・方法

2年次は、以下の点に力点を置いて研究を進める。

・国語、算数、社会、理科、生活の「見方・考え方」についての理解を深める。

・自分事になり得る単元を貫く学習課題や本時の課題設定をした上で、「見方・考え方」そのものや「見方・考え方」を働かせて問題解決することの良さを自覚させるには、どのような手立てが有効に働くのか(問い返しや話し合いの仕方の工夫、振り返り、活用場面の設定など)

(1) 内容

①国語、算数、社会、理科、生活の「見方・考え方」について

昨年度までの校内研究において、児童が問題解決の際に働かせた「見方・考え方」は、以下のとおりである。

算数科

- | | | | |
|----------|----------|--------|-------|
| ○帰納的な考え方 | ○演繹的な考え方 | ○置き換える | ○絞り込む |
| ○まるめる | | | |

他にも、以下の数学的な見方・考え方が教科書(学校図書)に取り上げられており、授業において活用を図った。

- | | | | |
|----------|-------|--------|----------|
| ○一つ分をつくる | ○分ける | ○置き換える | ○類推的な考え方 |
| ○順序 | ○そろえる | ○まとめる | ○当てはめる |
| ○帰納的な考え方 | | | |

国語科

○事例の順番（説明文）

体育科

○する ○見る ○支える ○知る

引き続き、国語、算数科での「見方・考え方」、さらに社会、理科、生活科での「見方・考え方」の具体を明らかにしていく。

②自分事になり得る単元を貫く課題や本時の課題、「見方・考え方」を働かせて問題解決するための手立て

国語、算数、社会、理科、生活の「見方・考え方」を用いて問題発見・解決能力を育成していくためには、いかに児童が課題を自分事として捉えることができるかがとても大切なことである。どんな課題を設定すると、児童が自分事として問題解決することができるかを考え、設定する。

昨年度までの校内研究における、具体的な問い返しは、以下のとおりである。

※()がないものは全て算数科における問い返しである。

○考えや数の「意味」についての問い返し
「〇〇さんの言いたいことの意味は分かった？」 「〇〇さんの言いたいこと分かる？」 「この『1』って何ですか？」「この式の『3』って、何が3なの？」 「分かりやすいつてどういうこと？」(国語科)
○「理由や根拠」を明確にさせる問い返し
「なぜ、まるの形がいいのですか？」 「なぜ、やりやすいと考えたの？」 「90と見た理由は？」「80と見た理由は？」 「線が切れていると、なぜ三角形だといえないのですか？」 「なぜ、三角形と四角形に分けると求められるの？」 「なぜ、できたの？」(体育科)
○その後の「帰納的な考え」を引き出す問い返し
「本当に一緒(等しい)？たまたまじゃない？」 「計算しなくても分かるってどういうこと？」 「分け方が違うのに、どうしてどちらも同じといえるの？」 「 2×6 と 6×2 、どちらでもよいの？」

児童の思考を深化させる場面や子どもに問いをもたせる場面で、上記の囲みにあるような「見方・考え方」そのものや「見方・考え方」を働かせて問題解決することの良さを自覚させるために、昨年度まで教師の問い返しに注目してきた。また、話合いの際、互いに説明することやペアでの話合いで理解が深まらない場合は、結論の出ている児童の考えを途中まで紹介し、その後を自分の言葉で説明し合うなど、全員が話合い活動によって新たな気づきを得るための話合いの仕方を工夫してきた。この他にも、「見方・考え方」を働かせて問題解決するために有効な手立てはどのようなものがあるのかを明らかにしていく。その際、昨年度に引き続き、どのような問い返しをすればよいのかということや、どのように話合いの仕方を工夫するとよいかということ以外にも、振り返りの仕方や活用場面の設定などをどのように工夫していくか、タブレット端末を活用できないかといったことを手立てとしながら児童の深い学びに迫っていく。

併せて、柏崎ステップアップ学びプランにある「子どもが主体の多様な学び」「一人一人に応じた学び」「他者と力を合わせるリアルな学び」の実現に向けて関連が図れるようにする。

(2) 方法

①②を踏まえた単元全体を見通した授業づくりをするとともに、①②を本時に明確に位置付けた授業により検証する。また今年度は、国語、算数、社会、理科、生活の教科で行う。想定する「見方・考え方」、自分事になりえる単元を貫く学習課題や本時の学習課題、「見方・考え方」を働かせて問題解決を行うための手立てを具体的に指導案に明記する。

3 評価の方法

児童が「見方・考え方」を働かせて主体的・対話的で深い学びを促すことができたか、児童の観察評価を行う。参観者は、対象児童を自分で決め、対象児とペアやグループの児童の様相を見取る。

4 研究の日程と担当

(1) 研究体制

① 公開授業

ア 学年部ごとに授業を1公開する。(学年部内、2公開以上も可。)

授業を公開しない担任も、校内研修計画を基に自己の授業改善と、指導案検討や授業準備、まとめの作成など、協力して行う。

イ 指導案の「本単元を通して目指す姿」の中に、学校の重点目標「自分で決めて仲間とともに高め合う子」も踏まえながら、単元全体を通して育てたい設定した「見方・考え方」を働かせて問題解決している児童の姿を具体的に位置付ける。

ウ 本授業の具体的な手立てを明確にし、焦点付けて協議できるようにする。

エ 本時の授業シミュレーションは、前日にならないように努め、前時を2日前に行っておく。

オ 指導案の形式は以下のように統一する。

内容	主な項目	フォントと字数 等
指導案	A 4 : 4 枚 (1 単元名・2 単元の目標・3 児童と単元・4 想定する「見方・考え方」・「見方・考え方」を働かせて問題解決を行うための手立て・5 指導計画・6 本時について・板書計画)	11 p 44 字×45 行 余白 20 mm を基準とする。 (市教委論文作成要項に基づく)
授業の実際と考察	A 4 : 2 枚 (研修のまとめに使用)	

オ 授業者は、学年部と研究推進委員会とで授業内容について検討する。全ての公開授業において、事前に全職員に対して、指導案説明会を行う。また今年度は、外部指導者を招聘する授業を行う。

② 協議会

ア 協議の内容

目指す児童の姿を具現する具体的な手立てが有効であったかどうか。

イ 協議の進め方

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 1 研究の視点について | 2 質疑 (参観者) |
| 3 グループ協議 | 4 協議内容発表・まとめ→明日からの授業に生かせる結論を出す。 |
| 5 御指導 | |

ウ 参加方法

公開授業・協議会は、基本的に全員が参加する。1時間の授業を全て参観できない場合は、交代で参観する。ただし、協議会には全員が参加し、研修を深める。

協議会后、協議題以外で学んだことや気付いたことを含め、授業から学んだことについて、振り返りシートを書き、研究主任がまとめ、全職員へ配付し、授業者へさらにフィードバックを行う。

③ 知見の集積

授業後1か月以内に、学年部と研究主任とで授業の実際と考察を学年部のまとめとして作成し、全職員へ周知する。次の授業公開までに、成果と課題をつなげる。

(2) 日程と担当

日時	内容	日時	内容
5月18日(水)	校内研修① ・研修計画について ・公開授業について 等	10月14日(金) 11月25日(金)	Web問題配信日 入力完了締切日
6月 日()	指導案検討 (市教委訪問：初任研)	月 日()	中学年部 科授業公開()
6月3日(金)	学習指導改善調査配信日	月 日()	低学年部 科授業公開()
6月中	学習指導改善調査 ※配信された後、問題を分析して日程を決める。	12月20日(火)	高学年部 理科授業公開
		12月2日(金) 1月27日(金)	Web問題配信日 入力完了締切日
7月1日(金)	市教委訪問 ・略案にて公開(初任者は細案)	12月 日() 日()	ベネッセ学力調査
7月中 ※入力完了日 8月3日(水)	学習指導改善調査 採点・分析	1月20日(金) 3月10日(金)	Web問題配信日 入力完了締切日
8月10日(水) 9月30日(金)	Web問題配信日 入力完了締切日	1月 日()	校内研修④ ・これまでの授業実践の振り返り ・学年末に取り組むこと
8月 日()	校内研修② ・これまでの授業実践の振り返り ・公開授業に向けて	2月 日()	校内研修⑤ ・今年度の成果と課題
8月中	指導案検討 低・中・高学年部	※標記の他にも水曜日放課後を活用して、校内研修を行う。	
夏季休業中	校内研修③ ・講師(上越教育大学教授)を招いての研修(できたら) ・協同学習、ホワイトボードミーティング®を利用した授業例などを検討	・学級づくり講座 ・ICT活用研修 等	

※年1～2回外部指導者を招聘する授業を行う。

※指導案・まとめ等を集約し、HPで公開する。

※市教育センターの示範授業「授業の匠シリーズ」に積極的に参加する。

低・中学年部(授業者)は、夏季休業中に、構想の段階、もしくはある程度指導案を作成した段階で、学年部、研究推進委員会の先生方とで検討する。また、授業日5日前までには、指導案を起案する(外部指導者を招聘する授業は10日前まで)。

5 日常の研修内容

(1) 年間を通して意識して授業していく事項

- ① 各教科・領域の「見方・考え方」とは何かを考えた授業
- ② 児童に各教科・領域の「見方・考え方」を意識させる授業
- ③ 児童に各教科・領域の「見方・考え方」を活用することの良さを実感させる教師の価値付け

(2) 授業づくりのための基礎となる指導

- ① 日常的な「聞く」「話す」「かかわる」力の育成を意識した『みずほ学びのスタンダード』を活用した指導（例：重点を決めて取り組む，自分で決めて取り組む，振り返りの充実など。）
- ② 「◎」と「まとめ」のある板書構成
- ③ ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学び
- ④ 「家庭学習強調週間」を生かした自分で決めて行う家庭学習（※ICTの活用）の定着
- ⑤ 中学校区授業交流による指導力の向上
- ⑥ 家読の奨励，授業とリンクした家庭学習課題の設定（※ICTの活用）

(3) 日頃の学力向上を目指した授業づくり

- ① 過去の学力向上推進システム（Web配信問題）を生かした授業改善，結果分析・補充指導
- ② 全国学力学習状況調査，学習指導改善調査，ベネッセの学力調査による学力分析・考察

(4) 人権教育，同和教育，いじめ等に係る生徒指導研修

担当の計画による。

(5) 市教委論文への応募

日常の授業を理論的に価値付け，実践研究者としての能力を高めたり，自分の指導を振り返ったりして授業改善につなげるため，市教委論文への応募を行う。なお，転入してから3年目に執筆することを原則とする。ただし，執筆者の希望により，1・2年目に執筆したり，その他団体が募集する論文へ参加したりする場合もある。執筆者へのサポートを研究推進委員会と管理職が積極的に行う。

<資料1 児童から引き出した各教科・領域の「見方・考え方」の一例（これまでの実践より）>

算数科

- | | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 帰納的な考え方 | <input type="checkbox"/> 演繹的な考え方 | <input type="checkbox"/> 置き換える | <input type="checkbox"/> 絞り込む |
| <input type="checkbox"/> まるめる | | | |

他にも、以下の数学的な見方・考え方が教科書（学校図書）に取り上げられている。

- | | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 一つ分をつくる | <input type="checkbox"/> 分ける | <input type="checkbox"/> 置き換える | <input type="checkbox"/> 類推的な考え方 |
| <input type="checkbox"/> 順序 | <input type="checkbox"/> そろえる | <input type="checkbox"/> まとめる | <input type="checkbox"/> 当てはめる |
| <input type="checkbox"/> 帰納的な考え方 | | | |

国語科

- 事例の順番（説明文）

体育科

- する
- 見る
- 支える
- 知る

<資料2 児童の思考を深化させる問い返し（これまでの実践より）>

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 考えや数の「意味」についての問い返し
「〇〇さんの言いたいことの意味は分かった？」
「〇〇さんの言いたいこと分かる？」
「この『1』って何ですか？」「この式の『3』って、何が3なの？」
「分かりやすいつてどういうこと？」（国語科） |
| <input type="checkbox"/> 「理由や根拠」を明確にさせる問い返し
「なぜ、まるの形がいいのですか？」
「なぜ、やりやすいと考えたの？」
「90と見た理由は？」「80と見た理由は？」
「線が切れていると、なぜ三角形だといえないのですか？」
「なぜ、三角形と四角形に分けると求められるの？」
「なぜ、できたの？」（体育科） |
| <input type="checkbox"/> 「帰納的な考え」「演繹的な考え」を引き出す問い返し
「本当に一緒（等しい）？たまたまじゃない？」
「計算しなくても分かるってどういうこと？」
「分け方が違うのに、どうしてどちらも同じといえるの？」
「 2×6 と 6×2 、どちらでもよいの？」 |

<資料3 各教科・領域の「見方・考え方」を働かせて問題解決していく児童の姿を価値付ける方法（昨年度の実践より）>

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> 単元の終末に、「見方・考え方」を働かせて問題解決したことの価値や良さに目を向けさせる場を設定する。
<input type="checkbox"/> 「見方・考え方」を掲示物としてまとめ、掲示し、毎時間の授業の導入で活用したり、いつでも児童がそこに立ち返ったりすることができるようにする。
<input type="checkbox"/> 単元の終末に、「見方・考え方」を働かせないと問題解決できないパフォーマンステストを行う場や「見方・考え方」を生かして取り組む学びの場（例えば、読む単元を生かして書く単元を行う）を設定する。 |
|---|

<資料4 前研究1～4年次研究の成果・課題>

「共に考えを深める子の育成」を研究主題として掲げ、授業研究を行ってきた。4年間の研究で得た知見を以下に示す。

① 1年次研究

ア 共に考えを深めるための有効なかかわらせ方

- 学習内容の理解につながる他者説明（仲間の考えを説明）の有効性
- 曖昧な考えを整理し、共通理解を促す問い返しの効果
- 自由に考えを交流し合う場を設定することの必要性

イ 教具の活用方法

- 具体物の操作活動（自力解決から複数での話し合い活動）による思考の深化
- 実物投影機等を活用した考えの可視化（全体での話し合い活動）による話し合いの焦点化

② 2年次研究

ア 「問い」をもたせるための問題の提示の仕方や課題設定の在り方

- 「自分と友達の考えのずれ」「予想とのずれ」から、「問い」をもたせる問題提示の有効性
- 「見えない」「分からない」から、意欲的に取り組ませるための問題提示の有効性

イ 共に考えを深めるための有効なかかわらせ方

- 仲間の考えを基にした問い返し、他者説明の効果
- 仲間の解法を基にしたペア、グループ活動の有効性

③ 3年次研究

ア 数学的な見方・考え方について

- 対比的な問題提示や問題の一部を隠すなどの問題提示の有効性
- 日常生活にかかわった問題提示の有効性

イ 問い返しについて

- 考えや数の「意味」、理由や根拠を明確にさせる問い返しによる思考の深化
- 数学的な見方・考え方を引き出す問い返しの効果

④ 4年次研究

ア 問い返しと問い返した後の活動の在り方について

- 問い返し後のペアでの話し合い活動の場を設定することの有効性

イ 数学的な見方・考え方について

- 数学的な見方・考え方を子どもの言葉でネーミングすることによる理解の深まり
- 児童の考えを可視化する教具を用いることで多様な考えを引き出す効果
- 既習事項をまとめた掲示物の作成や教師の間違った問い掛けによる思考の深化